

令和7年度第1回

幸手市総合教育会議会議録

招集期日	令和7年11月18日（火）午前9時00分		
開会場所	幸手市役所第二庁舎 2階 第1会議室A		
開会の日時	令和7年11月18日（火）午前9時00分		
閉会の日時	令和7年11月18日（火）午前10時12分		

出席状況	職名	氏名	摘要	職名	氏名	摘要
	市長	木村 純夫	出席	教育委員	藤沼 寛次	出席
教育長		山西 実	出席	教育委員	古沢 万友実	出席
職務代理者		会田 研司	出席	教育委員	林 晴実	出席
教育委員		高島 勝也	出席			

傍聴人：0人

書記：佐々木 千晶・坂本 康太

議事参考者	職名	氏名	職名	氏名
	総合政策部長	春田 松司		
教育参	教育部長	仙田 茂雄		
	政策課長	中野 仁美		
与	教育総務課長	大竹 孝典		
	学校教育課主席主幹	山本 直人		
者	社会教育課長	小山 紀子		
	政策課主幹	小森谷 和則		

議　　事	顛　　末
開　　会 午前 9 時 00 分	教育部長 開会を宣する。
あいさつ	市長 あいさつする。
日程第 1 協議調整事項 及び報告事項 協議調整事項第 1 号 学校における働き方改革に係る計画について	教育部長 事務局から説明をお願いする。 学校教育課主席主幹 資料について説明する。
協議調整事項第 2 号 今後の教育行政の推進について校における働き方改革に係る計画について	教育部長 市長から教育行政の推進に関わる施策等について述べていただき、その後、委員の皆様から御意見やお考えを伺いたい。 幸手市長 令和 7 年度は、「第 3 次幸手市教育大綱」のもと、「教育、学術及び文化の更なる振興」を目指し、皆様と共に様々な施策を推進している。 教育委員会においては、国の「リーディング DX スクール」事業の推進をはじめとしたデジタル教育の充実、特別な支援を必要とする児童生徒に対応するための多様な支援、そして喫緊の課題である、教職員の「働き方改革」に向けた取組など、現代的な教育課題に対し、迅速かつ的確に取り組んでいただいている。また、令和 9 年 4 月の学校再編に向けた準備を着実に進めていただいているについても、深く感謝を申し上げる。 本市の最重要課題は、引き続き「人口減少・少子高齢化」への対応である。この大きな課題を乗り越え、持続可能なまちであり続けるために、教育の充実と子育て支援の強化は、市政運営における最重要施策の一つである。子どもたちが質の高い教育を受け、健やかに成長できる環境を整えること、そして、保護者の皆様が安心して子育てをできる環境を整備すること、この両輪が、「幸手市に住んで

良かった」「これからも住み続けたい」と実感していただくための鍵であると確信している。

こうした想いのもと、令和8年度には、私の公約でもある「市内小・中学校の給食費の無償化」を実施する予定である。この取組は、単に子育て世帯の経済的負担を軽減するだけでなく、すべての子どもたちに格差なく、安全・安心な給食を提供することを通じて、学習環境の平等化を目指すものである。食事は、子どもたちの健康を支え、集中力や学びの質を高める重要な要素であり、本市の未来への「投資」である。

また、その令和8年度は、本市にとってもう一つの大きな節目を迎える年もある。来る令和8年10月1日、幸手市は市制施行40周年を迎える。この記念すべき節目を、市と市民が一丸となって祝い、市の更なる発展の契機とするため、記念事業を計画している。

とりわけ、この40周年を、未来を担う子どもたちが本市への愛着を深め、未来への希望を感じられるようなものにしたいと強く考えている。この点についても、教育委員会の皆様に多大なる御協力を賜りますようお願い申し上げる。

令和8年度は、学校再編の準備、いじめ・不登校問題、部活動の地域展開、学校の働き方改革など、市と教育委員会が連携しながら一丸となって引き続き対応すべき重要課題が山積しており、新たな学校づくりの転換点にきていていると認識している。

まさしく「国家百年の計」は教育にある。本市の未来を担う子どもたちのために、何が最善であるか。本日の会議においても、委員の皆様の豊かな識見に基づき、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げる。皆様との活発な議論が、本市の教育をさらに一步前進させる力となることを期待して、私からの所感とさせていただく。

《意見交換》

藤沼委員

働き方改革について意見がある。一般企業では残業抑制という言葉を使用するが、年間総労働時間が多いとアウトプットが落ちる傾向にある。教職員の仕事の質の向上が重要であることから、残業の抑制だけに捕らわれないようにしていただきたい。教職員の残業は減らしつつも、子どもたちの学力が低下しないよう、全チーム型の令

	<p>和の教育の仕組づくりをしてほしい。</p> <p>今後の教育行政については、市長が進めている大規模プロジェクトで外から人が入ってくることで、市民の考え方方が変わっていくことが期待される。市民の価値観が変化して良い方向に向かっていくことと考える。その際は、図書館、公民館が重要施設になるので、老朽化対策等、施設に対する予算配当を適切にしてほしい。</p>
	<p>教育部長</p> <p>1点目、仕事の質を向上しつつ、残業時間を減らしていくべきであるというご意見を踏まえ、計画を策定していくたい。</p> <p>2点目、図書館や公民館の老朽化対策については、施設全体のアセットマネジメントや予算の関係もあるため政策課から回答する。</p>
	<p>政策課長</p> <p>公共施設の総合管理計画と個別施設計画を作成して、今後の方向性を示している。施設の集約や複合化等を検討している。学校跡地利活用も含めて老朽化対策を進めていきたい。</p>
	<p>高島委員</p> <p>働き方改革の一番の趣旨は質の高い教育を維持することにある。教員の処遇は改善傾向にあるが、給与が上がるからという理由で教員になる人はあまりいない。志を持っているから教員になる人が多い。</p> <p>授業の質の向上のため、教員が研鑽を積める環境にどのようにしたら持つていけるかが大切で、その環境を提供できるのは校長である。校長は、服務を監督するだけでなく、教員を育てることが大切な仕事である。</p> <p>学力が低くても、学校の教員が楽しい授業をしていて、子どもたちの非認知能力がどれだけ伸ばせるかが大切である。その中で働き方改革があって、必要なものとそうでないものを各学校で見極めながら、校長を中心に、組織として円滑に運営することが重要である。</p>
	<p>教育部長</p> <p>教職員の残業時間にスポットが置かれてしまうが、教員の授業の質を高められるような形で、働き方改革を進めていけるように計画を策定したい。</p>
	<p>古沢委員</p> <p>雨天翌日の運動会に訪問した際に、グラウンドのコン</p>

ディションが大変良かったが、その裏には、教職員が当日整備したという状況であった。このような作業は教員の本来の仕事とは異なるものもあり、負担ではないかと感じるとともに、有難いと感じた。今までの環境を見直して、教員が授業に向き合える環境を構築することが大切である。

しかし、学校から負担軽減のため、今までのやり方を変えるという発信があると、戸惑いを感じる場面も多いと考える。学校ではなく市から、学校は教育に専念する場所であることを発信することで、社会全体の意識を変えていくことが出来るのではないかと考える。

給食費の補助に関する申請書を学校経由にするのではなく、市へ直接申請としたり、デジタル化をしたりすれば、学校の事務負担を減らすことが出来るのではないかと思う。

教職員が笑顔で子どもたちと向き合えるように、保護者も学校に過度に頼らずに、教職員の負担を減らせる取組に協力していきたい。

教育部長

教職員の影の努力について感謝してもらえる方と、今までの業務を減らすことに、戸惑いがある方といるのが今の現実であり、本来の教職員の業務については、少しずつ意識改革を進めていきたい。

学校給食費については、保護者から直接現金を徴収することはなくなるが、今後も現金の徴収をする場面はあると聞いている。それについてはデジタル化も含めて教職員の業務の軽減に向けて、検討していきたい。

林委員

教師の働き方改革の推進にあたり、教育委員会職員の負担増加が心配である。計画の作成や報告、モニタリングなどで、教育委員会の人材不足につながらないかと考える。働き方改革のために教育委員会が疲弊しないように十分に配慮していただきたい。

教育部長

現場の教職員の働き方改革のために、教育委員会の職員の残業が増えるようでは、適切な働き方改革とは言えないので、そのようにならないよう努めていきたい。

会田職務代理者

教員採用試験の倍率が過去最低で2.2倍となっている。

自身の受験時期は10倍程度あった。当時は学校が荒れていた時代にも関わらず、教員を目指す人が多かったのに、今はこれだけ希望者が減ってしまった。それは、民間企業の魅力が高まっていることもある。教職員が少なくなってしまう以上、地域で担っていく部分が増えるのはやむを得ないと考える。教職員の人員不足や働き方改革により、部活動の地域展開をしないといけない未来が目前に来ている。部活動の地域展開等は大変お金がかかり、学校だけでどうにもすることが出来ない。

それを踏まえて、市として取組むべきことが増えていくという意識改革をしてほしい。これに合わせて、財源を確保するため、税収が増えるように努力していっていただきたい。

また、幸手市でも子どもたちが残って働きたいと考えられるような、産業を増やしてほしい。総合政策部は幸手市の将来像を見据えている部署でもあるので、人口や税収が減ってしまい財源が少ないという議論だけでなく、税収をいかに増やすかに視点をおいていただきたい。

教育部長

部活動の地域展開については、教育委員会を中心に進めていて、方針を協議中である。

幸手市に産業があって就職先があれば、人口の流出が防げるのではないかというご意見については、幸手市の全体の話として総合政策部長から回答する。

総合政策部長

財政状況については、扶助費と教育費で市全体の予算の5割を超えており、給食費等も加わればさらに増えていく状況である。将来的に教育費は増えていくという認識はしている。その中で人口の減少による税収の減少も見込んでいるが、やらなければならない事業（施設の老朽化等）も先送りせず対策していくかなければと考えている。

人口の減少対策については、雇用の確保が必須との考え方から、①トレーニングセンター、②上高野地区の農業施設、③産業団地拡張、④道の駅の4大事業を掲げ、人口の減少傾向を緩やかにする取組を進めている。

全ての教育予算が市の予算へと移っていくという認識でなく、慣例の見直しをして業務を洗い出し、市もスリム化していく必要がある。人口減少・税収減少を踏まえ、学

	<p>校現場と同様に意識を変えて、市の業務を見直していく たい。</p> <p>高島委員</p> <p>税収は増やしたいことはもちろんだが、努力しても難 しいところがある。</p> <p>大学院で教育の質を上げることで、住民の収入をあげ ることが出来ると聞いたことがあり、人口が少なくても 質の高い教育により税収を増すことが出来れば税収の減 少を減らすことにつながるのではないかと考える。</p>
	<p>教育部長</p> <p>協議調整事項第1号については、本日の意見を踏まえ て教育委員会で検討の上、次回以降の総合教育会議で報 告をする。</p> <p>これまでの協議を受けて、教育長に総括をお願いする。</p>
	<p>教育長</p> <p>総括として、多くの意見が働き方改革に関するもので あった。教育委員会や市に問われているのは、教育内容だ けでなく今後の学校の在り方そのものが問われているの ではないかと考える。日本では従来から学校への依存傾 向の風土があったが、いかに全チーム型の令和の学校教 育を市長部局と教育委員会でシステム作りを進めていく かがポイントになる。</p> <p>また、教員そのものの仕事は授業の質を高めていくこ とであり、そこに向けての体制づくりをどうするかを考 えていかなければならない。教員が笑顔で子どもたちと 向き合えるための環境整備のため、今までの慣習を見直 していく必要もある。</p> <p>その中でご指摘のあったように、教育委員会職員の事 務負担増加も懸念される。</p> <p>部活動の地域展開については学校のシステムを変える 取組であるが、近隣市では多額の予算をつけて実績 もある。</p> <p>本日の意見交換を基に全チーム型の令和の学校教育を 実現するために、市民の意識改革と制度そのものをど のように構築していくかを考える必要がある。</p>
	<p>教育部長</p> <p>市長から一言お願いする。</p> <p>市長</p> <p>貴重なご意見をいただき、今すぐに解決できない課題</p>

	<p>が多かったので、本日の話の内容を丁寧に精査していく たい。</p> <p>C S ／ E S (Customer Satisfaction 顧客・市民満足度 ／Employee Satisfaction 従業員満足度) という考えがあり、分母の従業員に元気があってやる気があり、しっかりと 働くないと、分子の市民の満足度は上がらないという考 えで自身の原点となっている。教育委員の意見にもあつたが、やはり質の向上が必要である。冒頭に話したとお り、「国家百年の計は教育にあり」を実現するために、教 育に関する様々な問題等を、何が最善か個々の問題を解 決した先に教育の質は自然と向上していくと考える。</p> <p>あらためて今日、教育委員の皆様から非常に示唆に富 んだ貴重な声を頂戴したので、私もしっかり考え、進めて いきたいと思うので、これからも幸手の教育のために一 丸となって取組んでいきたい。</p>
日程第 2 その他	なし
閉　　会 午前 10 時 12 分	教育部長 閉会を宣す。

他特に重要な事項	なし
	<p>上記会議の顛末を記載し相違ないことを証するため、ここに署名する。</p> <p>令和7年12月16日</p> <p>教育委員会 田研司</p> <p>教育委員 林晴実</p>